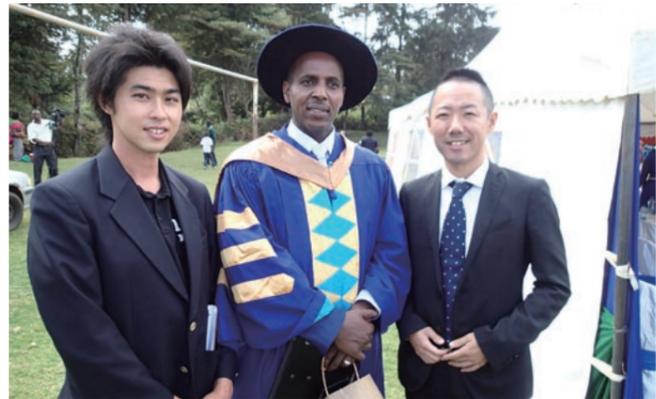


奨学金を得て学校に通えるようになったオチング・ティベリアスさんを、担当の濱田裕介隊員が定期的に訪問している



かつてKESTESの奨学生だったキホロさんの母校でのイベント。委員長の堀さん(左)、前委員長の藤城友昭さんが招かれた

「学費を払っていない人は、今すぐ出ていきなさい」  
 そう言われ、学校から追い出される子どもたちがいる。そんな国がこの世界にはあるのだ。  
 その一つが、東アフリカの経済の中心地ケニア。目覚ましい発展を続けているにもかかわらず、全ての人が教育を受けられるわけではない。  
 特に農村の家庭では、中等教育に進めない子どもが多い。学費や制服代、寮費、給食費などが、家計から捻出できないからだ。水くみやまき拾い、小さな弟妹たちの世話など、家での仕事を優先しなければならぬ場合もある。子どもたちにくらやる気があるって

「学費を払っていない人は、今すぐ出ていきなさい」  
 そう言われ、学校から追い出される子どもたちがいる。そんな国がこの世界にはあるのだ。  
 その一つが、東アフリカの経済の中心地ケニア。目覚ましい発展を続けているにもかかわらず、全ての人が教育を受けられるわけではない。  
 特に農村の家庭では、中等教育に進めない子どもが多い。学費や制服代、寮費、給食費などが、家計から捻出できないからだ。水くみやまき拾い、小さな弟妹たちの世話など、家での仕事を優先しなければならぬ場合もある。子どもたちにくらやる気があるって

### 教育は未来を切り開く力

掘泰洋隊員は、「交通の便が悪くて訪ねるのが大変な生徒もいますが、一人一人と親密な関係を築いているのがKESTESの強み。現地の人々と生活を共にする隊員ならではの支援を通して、ケニアのより良い発展に貢献するのが目標です」と話す。

キホロさんもいる。  
 86年、貧しい家庭に育ったキホロさんは授業料未納のため、学校に行けなくなっていました。しかし、教える子である彼の数学の能力の高さに気付いていた黒田孝伸隊員(当時)が彼の家を訪れ、学業を続けられるように両親を説得。キホロさんはKESTESの選考を見事通過し、奨学金を受けることができた。その後は学校の先生をしながら勉強を続け、ついには博士号を取ることができたのだ。  
 「今の自分があるのはKESTESのおかげ」と話すキホロさん。堀さん

も「経済的な困難があっても、努力を続ければ道が開ける可能性がありませう。自分の生徒たちにもそう伝えていきたい」と抱負を語る。  
 こうした現地での活動をサポートし、日本での口座の管理や国内での広報活動を担当するのが日本窓口。そのスタッフもみんなケニアの隊員経験者だ。代表を務める金田健一さんも、2000年から理科教科教員の隊員として活動し、今は小学校教員として多忙な日々を過ごしている。  
 「国際協力系のイベントに出展すると、まだKESTESってあるんだ!」と、大先輩の隊員経験者から声をかけられることもあり、歴史を感じます」と話す。「世界の人びとのためのJICA基金」も活用しながら、アクセスを増やすためにホームページをリニューアルしたり、ウェブから寄附ができるシステムを導入したりと奮闘中だ。  
 「KESTESがこんなに長く続いてきたのは奇跡です」と語る金田さん。その言葉通り、08年のケニア大統領選挙後に暴動が起きた影響で一時解散したこともあったが、すぐに復活した。ケニアの未来を変える大人に育ってほしい。その思いをこれまで引き継いでこられたのは、まさに隊員たちの団結のたまものだ。これからも子どもたちの新しい未来のために、みんなで支え続けていく。



元隊員のデザイナーが作成したKESTESオリジナルグッズを販売し、好評だった

日本窓口の金田さん(前列左から2人目)をはじめ、ケニア隊員経験者が協力してグローバルフェスタに出展



※青年海外協力隊在ケニア隊員有志による奨学金制度 (Kenya Students' Education Scholarship) の略称。



国際協力の担い手たち

ケ ス テ ス



## 教育が変える子どもたちの未来

お金がないために学校に行けない。  
 そんな子どもたちの力になりたいと、  
 ケニアの青年海外協力隊員が立ち上げたKESTES。  
 その活動は代々受け継がれ、子どもたちの未来を明るく照らしている。



学歴によって就ける仕事に限られてしまうケニア。教育を受けられるチャンスが人生を左右するため、奨学金が果たす役割は大きい